

長崎女子短期大学の自己点検・評価における 学修評価システムの構築

武藤 玲路・森 弘行・山口 ゆかり
本村 弥寿子・荒木 正平

Construction of learning assessment system in self-inspection and
evaluation of Nagasaki Women's Junior College

Ryoji MUTO・Hiroyuki MORI・Yukari YAMAGUCHI
Yasuko MOTOMURA・Shohei ARAKI

キーワード：学修評価システム、学修成果、PDCA サイクル、自己点検・評価

1. 背景と目的

2004年10月の短期大学基準協会による「教育の質保証」に関する提言と、2012年8月の文部科学省中央教育審議会による「教育の質的転換」に関する提言、および2015年10月の文部科学省高等教育局大学振興課による「3つの方針に基づく教育」に関する提言は、今後の短期大学教育の改革・改善を方向づける大きな指針となっている。

本稿は、上記3つの提言に関して、筆者が所属する長崎女子短大がこれまでに取り組んできた内容の途中経過を報告するものである。

1.1 教育の質保証と自己点検・評価

短期大学基準協会は、2004（H16）年10月に第三者評価実施要領¹⁾を公表した。その中で「第三者評価は、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資するとともに、評価システムや評価の結果を公表することによって広く社会の理解と支持を得ることを目的とする」ことを示した。また、「短期大学設置基準を基礎とした短期大学評価基準による評価を基本としつつ、短期大学の個性を尊重する評価も併せて行う」こと。「自己点検・評価報告書に基づき、書面調査及び訪問調査により、各評価員が短期大

学評価基準に定める区分ごとに評価を行う」ことを示した。

原田（2015）²⁾は、第三者評価 ALO 対象説明会において、特に学修成果の向上・充実を焦点とした、査定・学修成果・3つの方針・授業改善のPDCA サイクル、および根拠資料の系統化・体系化の重要性を改めて指摘した。また、2014（H26）年度に実施された第三者評価について、「特に優れた試みと評価できる事項」として、①査定と関連させた学修成果の設定とカリキュラム・マップおよびシラバスの整備、②授業科目のナンバリングと科目系統図およびルーブリックによる学修成果の評価基準の設定、③卒業生の就職先への聞き取り調査と結果のデジタル化、が紹介・賞賛された。

従って、短期大学教育の質保証と自己点検・評価においては、明確な学修成果の設定と体系的な成果検証の両方を網羅する学修評価システムの構築が必要不可欠であると言える。

1.2 教育の質的転換とアクティブラーニング

文部科学省は、2012（H24）年8月に提言した「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」³⁾の中で、教育の質的転換とアクティブラーニングの重要性を次のように表明している。

「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」

また、文部科学省のここ数年の提言等を包括的に解釈すると、次のようにまとめることができる。「今日のように、日々変動し価値観が多様化し続けるこれからの予測困難な時代に、自立して生きる力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成するためには、①アクティブラーニングなどの能動的学修への転換によって、主体的に考える力と生涯学び続ける力を身につける必要がある。②また、問題発見・解決力や人間関係力の学修による、想定外の事態への対応力や未知の時代を切り拓く力などのジェネリックスキル（汎用的能力、学士力、社会人基礎力）の修得も必要不可欠である。そのためには、短期大学が「何をどう教えたか」ではなく、学生が「何を身につけ何ができるようになったか（学修成果）」の視点に立った、上述のような「教育の質的転換」への取組が急務である」と言える。さらに、「これからの高等教育や短大教育の方向性について、学生はアクティブラーニングなどの能動的学修により、自己肯定感や自己効力感を持ち、自信とやる気が生じ、学修意欲の原動力や持続力となる。これによって、向上心や自己実現の欲求が高まり、生涯学び続ける力や臨機応変な対応力・適応力が強くなり、自立して生きる力、社会に貢献できる力が身につく。これが、母校の強み・魅力となり、その結果、社会的評価

が高まり、学生数の確保、財務の健全化、人的・物的な教育環境の充実へとつながり、更なる短期大学の発展を迎える。」ことになる。

清水（2015）は、学生の学修成果について、「アクティブラーニング —主体的な学びを促すために—」の中で、「パッシブラーニング（受動的学修）による浅い学びは、結果として、新しい概念を意味づけることが困難で、授業や設定された課題にほとんど価値も意義も見いだせず、課題に対して過度なプレッシャーや不安を感じる。一方、アクティブラーニング（能動的学修）による深い学びは、結果として、理解が深まるにつれ、自らの理解レベルを確認し、授業の内容により積極的に関心を持つようになる。そして、最も重要なことはアクティブラーニングの学修成果を検証する評価システムの確立である。」⁴⁾と述べている。

従って、ここでもアクティブラーニングなどの能動的学修の成果検証やジェネリックスキル（汎用的能力、学士力、社会人基礎力）の成果検証が可能な学修評価システムの構築が必要不可欠であると言える。

1.3 3つの方針に基づく大学教育への質的転換

文部科学省の中央教育審議会は、2015（H27）年に「三つのポリシーに基づく大学教育への質的転換」⁵⁾の中で、大学関係者が今後取り組むべき具体的な課題を次のように示している。

- ①多様な学生に対応できる体系的なカリキュラム編成
 - 初年次教育の見直し・充実
 - 履修系統図・ナンバリング等を活用した体系的なカリキュラム編成、教材の開発
 - 社会とのつながりや大学院教育との関係を見通した教育課程づくり
 - 教育内容及び学修成果の可視化、社会への情報の発信
- ②知識の伝達・注入を中心とした授業から能動的学修への転換
 - 教員の教育内容の充実や学生の学修時間の増加による単位制の実質化
 - 少人数のチームワーク、集団討論、反転授

業等の教育方法の充実

- リーディング・アサインメントの拡充等を通じた学修内容の質と量の抜本的充実
 - 留学、インターンシップ等の学外学修プログラムの充実
- ③学修成果の把握・評価
- 学生の学修履歴の記録や自己評価のためのシステムの開発
 - 具体的な学修成果の把握・評価方法（アセスメント・テスト、学修行動調査、ルーブリック等）の開発・実践
 - 学生の卒業後の追跡調査
- ④大学教育の質的転換の断行を支える体制の整備
- 各大学における FD・SD の充実
 - 教員の教育業績評価（授業評価、ティーチング・ポートフォリオ等）の促進
 - 大学入学者選抜や教学マネジメントに係る専門的な人材の職務の確立・育成・配置
 - TA 等の教育サポートスタッフの充実
 - 授業教材や FD 教材を収集したポータルサイトの構築、博士課程（後期）学生に対するプレ FD
 - ラーニングコモンズや図書館等、学生の能動的な学修を可能とする環境の整備

この中で特に「③学修成果の把握・評価」のための学修評価システムの構築は、今後の短大教育において、「教育の質保証」を左右する最も重要な課題であると言える。

1.4 目的

長崎女子短期大学における教育の質保証や質的転換については、武藤（2013）が「自己点検・評価における在学生調査の活用事例」⁶⁾で概要を報告した。そこで記述したように、同短期大学は2012（H24）年の第三者評価（第2クール）において、学修成果の評価指標の煩雑さと、学科・専攻間での統一に欠けている点が指摘され、学修評価システムの体系化と統一の開発・改善が強く求められた。現在はこの問題の解決に取り組んでいるが、本学の自己点検・評価の活動においては、教務システムが未だ導入されていない点と、IR（機関

調査）の業務を担当する専任の教職員が不在である点が大きな障壁となっている。

従って、今回はこれらの問題を踏まえ、長崎女子短期大学独自の自己点検・評価における学修評価システムの構築について、その現状と課題・展望を報告することとする。

2. 学修成果の検討

2.1 学修成果とは

文部科学省の中央教育審議会は、2008（H20）年12月の「学士課程教育の構築に向けて」⁷⁾において、学修成果を次のように定義している。

「学修成果」は、プログラムやコースなど、一定の学修期間終了時に、学修者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を言明したもの。「学修成果」は、多くの場合、学修者が獲得すべき知識、スキル、態度などとして示される。またそれぞれの学修成果は、具体的で、一定の期間内で達成可能であり、学修者にとって意味のある内容で、測定や評価が可能なものでなければならない。学修成果を中心に教育プログラムを構築することにより、次のような効果が期待される。

- ①従来の教員中心のアプローチから、学生（学修者）中心のアプローチへと転換できること。
- ②学生にとっては、到達目標が明確で学修への動機付けが高まること。
- ③プログラムレベルでの学修成果の達成には、カリキュラム・マップの作成が不可欠となり、そのため、教員同士のコミュニケーションと教育への組織的取組が促進されること。
- ④「学修成果」の評価（アセスメント）と結果の公表を通じて、大学のアカウンタビリティが高まること。

2.2 学修成果に関する現状

(1) 教育システム総覧

長崎女子短期大学の教育システム総覧（図1）には、建学の精神と教育理念、教育目標（学訓）、学修成果の到達目標、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針を、系

平成 27 年度 長崎女子短期大学 教育システム総覧
【全学科・コース共通】

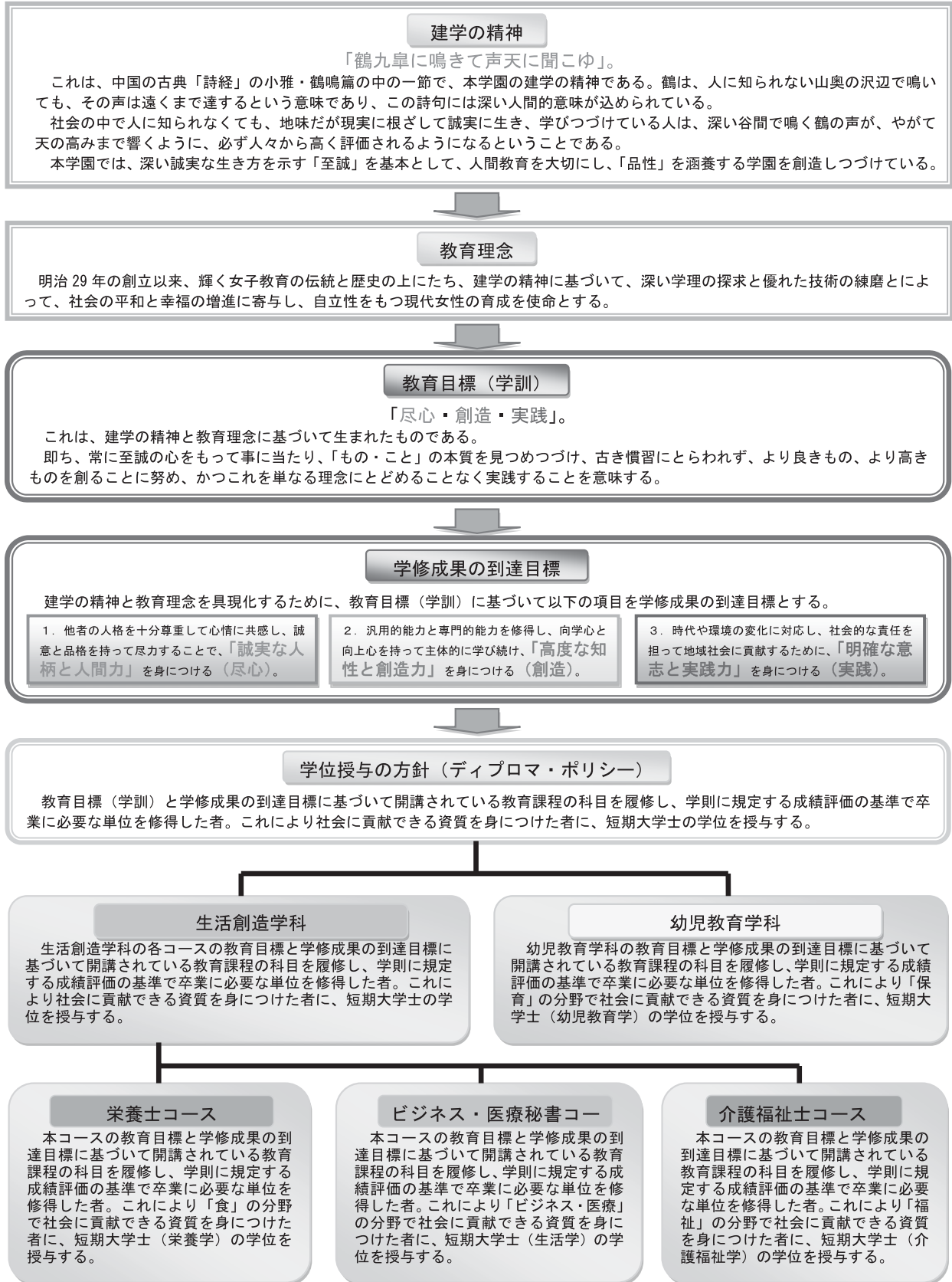


図 1. 全学科・コース共通の教育システム総覧

平成 27 年度 ビジネス・医療秘書コースの教育システム総覧

教育目標

ビジネス・医療秘書コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、社会人として求められる教養やマナーを身につけさせると共に、ビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材の育成を教育目標とする。具体的にはビジネス・医療秘書コースが定める学修成果の目標達成を目指す。

学修成果の到達目標

建学の精神とビジネス・医療秘書コースの教育目標を具現化するために、以下の項目を学修成果の到達目標とする。

- | | | |
|---|--|---|
| 1. 社会人や職業人として常に求められるホスピタリティマインドと人間性を修得する。 | 2. ビジネスや医療秘書の現場で求められる汎用的・専門的な知識と技能を修得する。 | 3. 地域社会において、自ら課題を発見・解決し、社会に貢献できる実践力を修得する。 |
|---|--|---|

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ビジネス・医療秘書コースの教育目標と学修成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより「ビジネス・医療」の分野で社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士（生活学）の学位を授与する。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ビジネス・医療秘書コースの教育目標と学修成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、以下の項目を教育課程の編成・実施の方針とする。

- | | | |
|--|--|---|
| 1. 社会人や職業人としての価値観や人生観、人間関係を学ぶ教育課程・教育プログラムを編成し、心のこもったホスピタリティマインドと豊かな人間性の修得を目指す。 | 2. ビジネスや医療秘書の現場で求められる資質に関する科目や、資格・検定に関する教育課程・教育プログラムを編成し、汎用的・専門的な知識と技能の修得を目指す。 | 3. ゼミナールやフィールドワーク、学外実習などのアクティブラーニングの教育課程・教育プログラムを編成し、実社会における課題探究力と問題解決力の修得を目指す。 |
|--|--|---|

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ビジネス・医療秘書コースの教育目標と学修成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、以下の項目を入学者受け入れの方針とする。

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 他者を思い遣る気持ちを持ち、ホスピタリティマインドを理解することができる者。 | 2. 基礎学力と素養があり、ビジネスや医療秘書の分野を学ぶ姿勢を持ち続ける者。 | 3. ビジネスや医療秘書の現場で、人の役に立ちたいという強い気持ちを持った者。 |
|---|---|---|

図 2. ビジネス・医療秘書コースの教育システム総覧

統的・体系的に関連づけて表明している。さらに、学修成果と 3 つの方針は、教育目標である学訓「尽心」「創造」「実践」に対応するそれぞれのキーワード「誠実な人柄と人間力」「高度な知性と創造力」「明確な意志と実践力」に基づいて、学科・

コースごとに設定している（図 2）。

(2) カリキュラム・マップ

長崎女子短期大学のカリキュラム・マップは、カリキュラム・フロー（図 3）とカリキュラム・

平成 27 年度 ビジネス・医療秘書コース カリキュラム・フロー

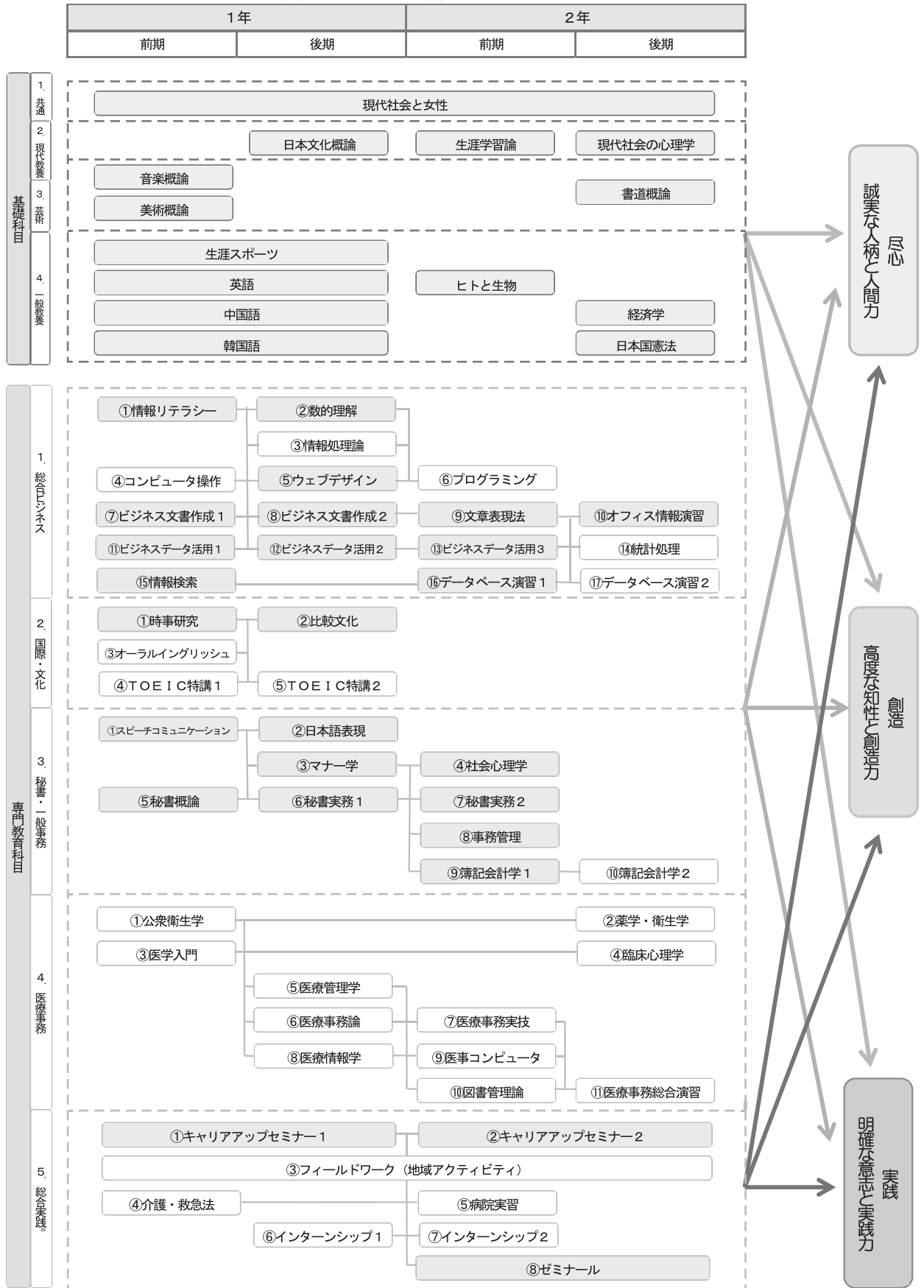


図 3. ビジネス・医療秘書コースのカリキュラム・フロー

表1. 平成27年度 ビジネス・医療秘書コース カリキュラム・リスト (抜粋)

科目コード	科目名	対象学生	学期区分	科目の到達目標	教育目標に基づく学修成果の到達目標		
					誠実な人柄と人間力 (尽心)	高度な知性と創造力 (創造)	明確な意志と実践力 (実践)
3501	キャリアアップセミナー1	1年生	通年	1. 自分の性格や能力や個性を明確に理解する (自己分析の基礎)	○		
				2. 自分の意思や感情等を的確に相手に伝える (自己表現の基礎)	○		
				3. 就職を希望している職場の受験対策をする (受験対策の基礎)		○	
				4. 就職を希望している職場の情報収集する (職場研究の基礎)			○
3502	キャリアアップセミナー2	2年生	通年	1. 自分の性格や能力や個性を明確に理解する (自己分析の応用)	○		
				2. 自分の意思や感情等を的確に相手に伝える (自己表現の応用)	○		
				3. 就職を希望している職場の受験対策をする (受験対策の応用)		○	
				4. 就職を希望している職場の情報収集する (職場研究の応用)			○
3503	フィールドワーク		在学中随時	1. 社会の中から取り組むべき課題を見つけ出す		○	
				2. 課題に対して最適な解決策を考える		○	
				3. 解決策の検討にあたって、専門知識を活用する		○	
				4. 他者との必要な対人関係を築く	○		○
				5. プロジェクトへの責任感を持つ	○		
3504	介護・救急法	1年生	前期・後期	1. 車椅子・杖などの使い方を理解できる。	○	○	○
				2. 車椅子・視覚がい害・聴覚がい害のある人への介助方法を理解できる。			
3505	病院実習	2年生	前期	1. 職場の人達や患者と積極的に触れ合い、明確に自己実現する	○		
				2. 職場で自分に与えられた業務を正確で迅速に遂行する		○	○
				3. 向上心をもって自己実現のための職場研究に取り組む		○	
				4. 社会人としての礼儀、服装、言葉遣い、態度で行動する	○		○
3506	インターンシップ1	2年生	前期	1. 職場の人達と積極的に触れ合い、明確に自己実現する	○		○
				2. 職場で自分に与えられた業務を正確で迅速に遂行する		○	○
				3. 向上心を持って自己実現のための職場研究に取り組む		○	○
				4. 社会人としての礼儀、服装、言葉遣い、態度で行動する	○		○
3507	インターンシップ2	2年生	前期	1. 職場の人達と積極的に触れ合い、明確に自己実現する	○		○
				2. 職場で自分に与えられた業務を正確で迅速に遂行する		○	○
				3. 向上心を持って自己実現のための職場研究に取り組む		○	○
				4. 社会人としての礼儀、服装、言葉遣い、態度で行動する	○		○
3508	ゼミナール	2年生	通年	1. 自ら課題を発見し、根拠に基づいた論理的思考で課題を解決していく「課題探求力」を身につける。		○	
				2. グループでのコミュニケーションやチームワークを通して作業を進めていく「人間関係力」を身につける。	○		
				3. 調査・研究の結果をまとめ、明快なプレゼンテーションができる「自己実現力」を身につける。			○

リスト(表1)の2つの図表から成っている。カリキュラム・フローは、各科目の領域と位置関係、教育目標(学訓)との関連を示した科目系統図である。カリキュラム・リストは、シラバスに掲載してある科目コードのナンバリングと学修成果の到達目標、教育目標(学訓)との関連を示した科目一覧表である。いずれも教育システム総覧に基づいて、系統的・体系的に分類・整理している。

(3) 学修成果の領域分類と評価指標

佐藤(2014)⁸⁾は、到達目標の分類方法には、高等学校の学習指導要領に対応させて、5領域、4領域、3領域に分類する方法があるとしている。長崎女子短期大学では、現在、3つの学修成果の「高度な知性と創造力(創造)」、「誠実な人柄と人間力(尽心)」、「明確な意志と実践力(実践)」を、それぞれ3領域分類の①認知的領域、②情意的領域、③精神運動的領域に対応させて位置付け

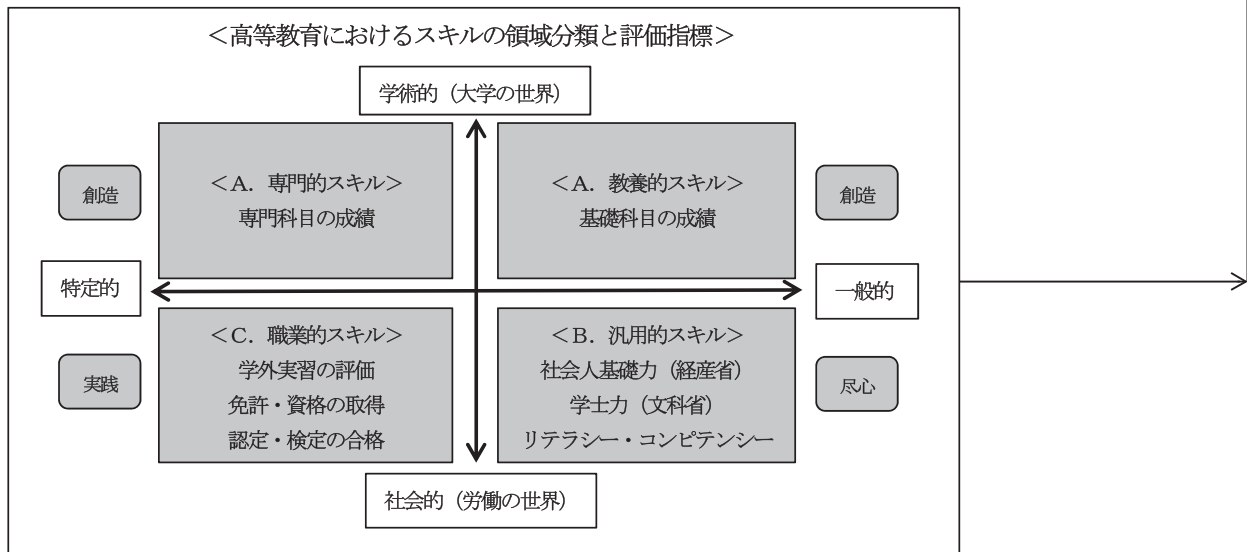
ている。

また、香川・吉川(2010)⁹⁾は、高等教育におけるスキルの領域分類と評価指標を、「学術的/社会的」と「特定の/一般的」の2つの軸を交差させて4つの領域に分類し、それぞれ①専門的スキル、②教養的スキル、③職業的スキル、④汎用的スキルの領域としている。長崎女子短期大学では、学修成果の「高度な知性と創造力(創造)」は①専門的スキルと②教養的スキルに、「誠実な人柄と人間力(尽心)」は④汎用的スキルに、「明確な意志と実践力(実践)」は③職業的スキルに対応するように位置付けている。

そして、それぞれの領域の評価指標として、「高度な知性と創造力(創造)」には専門科目・基礎科目の成績を、「誠実な人柄と人間力(尽心)」には社会人基礎力またはPROGの得点を、「明確な意志と実践力(実践)」には学外実習の評価、免許・資格の取得、認定・検定の合格を用いること

表 2. 平成27年度 長崎女子短期大学の学修成果の領域分類と評価指標
 〈学修成果の領域と到達目標、評価指標の関係〉

5 領域分類の到達目標 (高校の学習指導要領)	4 領域分類 の到達目標	3 領域分類 の到達目標	本学の学修成果 の到達目標	本学の学修成果 の評価指標	本学の学修成果 の可視化
①知識・理解	①知識・理解	①認知的 領域	A. 高度な知性と創造力 (創造)	専門科目・基礎科目 の成績	レーダーチャート① 学科等別と個人別
②思考・判断	②思考・判断				
③関心・意欲	③関心・ 意欲・態度	②情意的 領域	B. 誠実な人柄と人間力 (尽心)	社会人基礎力または PROG の得点	レーダーチャート② 学科等別と個人別
④態度					
⑤技能・表現	④技能・表現	③精神運動 的領域	C. 明確な意志と実践力 (実践)	学外実習の評価 免許・資格の取得 認定・検定の合格	レーダーチャート③ 学科等別と個人別



にしている。最後に、3つの学修成果のそれぞれについてレーダーチャートを作成し、体系的に学修成果を可視化するようにする。

以上の長崎女子短期大学の学修成果の領域分類と評価指標を表2に示す。

2.3 学修成果に関する課題・展望

短期大学基準協会は、2015（H27）年の自己点検・評価報告書作成マニュアル¹⁰⁾に、学修成果の条件を以下のように定めている。

- ①学修成果に具体性がある。
- ②学修成果は達成可能である。
- ③学修成果は一定期間内で獲得可能である。
- ④学修成果に実際的な価値がある。
- ⑤学修成果は測定可能である。

現在の長崎女子短大の学修成果は、教育目標(学訓)と3つの方針を体系的に簡潔に関連づけて設定しているが、その反面、上記の具体性と測定可能という条件に欠けている面がある。

また、2014年に中教審初中教育分科会が小・中・高校の次期学習指導要領の枠組みを決める「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」において、「現行学習指導要領では、①基礎的知識・技能の習得、②これらを活用して課題解決を図る思考力・判断力・表現力の育成、③主体的に学修に取り組む態度、の『学力の3要素』が強調されたが、新学習指導要領では、それらをさらに統合した学力観を構築する必要がある。」¹¹⁾という意見があった。

従って、長崎女子短期大学においても社会のニーズと他学の動向を視野に入れた見直しを定期的に行い、学修成果の領域分類と評価指標の多様化・具体化に努める必要がある。

3. PDCA サイクルの検討

3.1 PDCA サイクルとは

短期大学基準協会の短期大学評価基準（2015）には、査定（アセスメント）とPDCA サイクル

の重要性について以下のように記している。「教育の効果を高めるためには、建学の精神と結び付いた教育の目的・目標、教育課程および教育プログラム並びに学修成果について点検・評価する査定（アセスメント）の手法を有し、その結果に基づき教育が効果的に行われているかを検証しなければならない。査定（アセスメント）は、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受け入れの方針」（以下、三つの方針という）の関係を見直し整備するためのPDCAサイクルを含む系統的なものである。短期大学は、学修成果を焦点とした教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践から得られる量的・質的データを根拠とした学修成果の分析・評価を行い、目標・計画の向上・充実を図る恒常的かつ系統的な自己点検・評価活動を行わなければならない。」¹²⁾

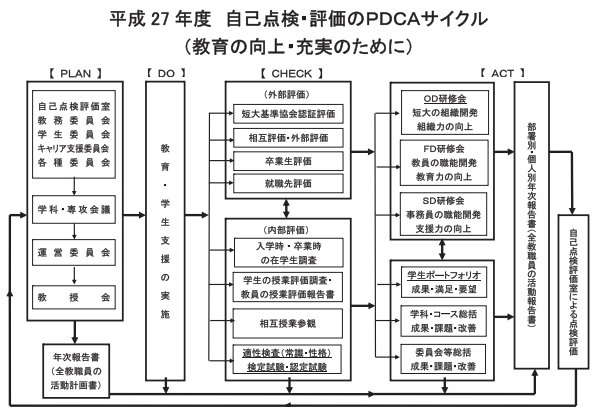


図4. 自己点検のPDCAサイクル

3.2 PDCA サイクルに関する現状

長崎女子大学では、現在4種類のPDCAサイクルに基づいた自己点検・評価と教育の質保証に取り組んでいる。それは次に示す「自己点検のPDCAサイクル」(図4)、「教育目標のPDCAサイクル」(図5)、「学修成果のPDCAサイクル」(図6)、「ジェネリックスキルのPDCAサイクル」(図7)である。

3.3 PDCA サイクルに関する課題・展望

2015（H27）年8月に開催された第三者評価ALO対象説明会では、教育の内部質保証とPDCAの関係を次のように説明している。「教育の内部質保証では、学修成果を焦点とした機関全体を査定する仕組みと、三つの方針や学修支援を充実させるためのPDCAサイクルを稼働させなければならない。自己点検・評価報告書には、査定とPDCAを日常的に繰り返し、学修成果を向

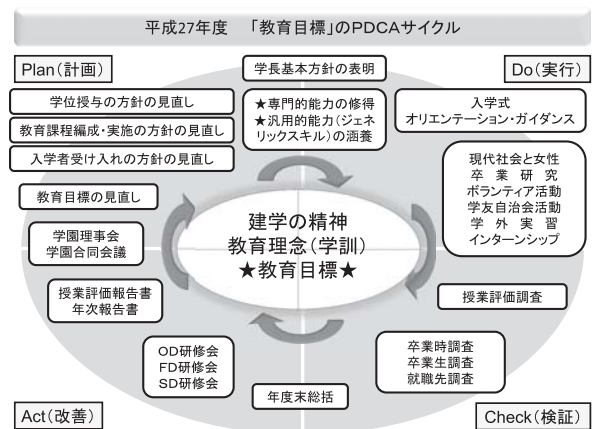


図5. 教育目標のPDCAサイクル

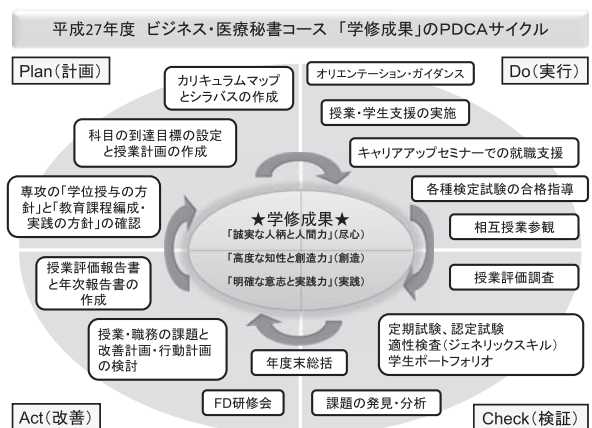


図6. 学修成果のPDCAサイクル

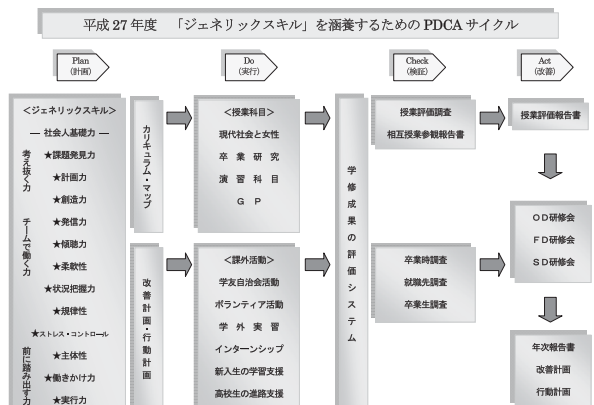


図7. ジェネリックスキルのPDCAサイクル

上・充実させている状況を明確に示すことが求められる」。そして、以下の6種類のPDCAサイクルの必要性を示している。

- ①査定手法のPDCAサイクル
- ②学修成果のPDCAサイクル
- ③学位授与の方針のPDCAサイクル
- ④教育課程編成・実施の方針のPDCAサイクル
- ⑤入学者受け入れの方針のPDCAサイクル
- ⑥授業改善のPDCAサイクル

従って、長崎女子短大では、上記のPDCAサイクルの構築を目指すとともに、日常的な授業・業務の総括や年次報告書の作成において、PDCAサイクルを基盤とした意識・行動がますます必要になってくる。

4. 学修評価システムの検討

4.1 学修評価システムとは

短期大学基準協会は、2015（H27）年の自己点検・評価報告書作成マニュアルに、査定レベルについて以下のように説明している。「査定（アセスメント）は、短期大学が証拠を集め、「教育の質」を保証するための方法である。学生個人に対しては、テスト、レポート、観察記録などを行うことによって点検・評価する方法があり、組織的には、学生を対象にした調査、卒業生を対象にした調査、雇用者を対象にした調査、外部評価などによるものがある。学習成果の査定（アセスメント）のサイクルのモデルとしては、①機関レベル／教育課程レベル／科目レベルなどで学生が身に付けて欲しいものを設定する、②教育の実施及び学習の評価、③学生がそれを身に付けたかどうか、データを収集し分析する、④その結果を査定し、次の行動計画を策定する。必要に応じて、改善点を検討し修正を加える。これを絶えず繰り返して、さらに質の向上を目指していくことが重要である。学習成果及びその査定（アセスメント）には、機関レベル（短期大学ごと）、教育課程レベル（各学科・専攻ごと）、科目レベル（各教員・授業科目ごと）などの段階がある。

(a)機関レベル：機関レベルでの学習成果の査定（アセスメント）は、機関全体が共同して行う計

画によって行われる。短期大学には、社会的ニーズに対応し、かつ、国際的に通用性のある学習成果が求められる。そのため、短期大学の質保証システムは学習成果の査定に焦点を置かなければならない。査定（アセスメント）は、短期大学が自ら設定した「どのような学習成果を獲得させるのか」、「その学習成果はどのような短期大学士を養成するのか」について点検・評価し、加えて、学習成果を焦点とした質保証を図るための体制を築いているかを確認することである。

(b)教育課程レベル：機関が定める学習成果に基づき、学科・専攻課程レベルでの学習成果を設定し、査定する。教育課程と学生支援が対象となり、学科（専攻）長、教員が科目レベルの査定結果を集約し、改善に向けてその見直しを行う。その中において、教育資源と財的資源の優先順位と配分を行う。教育課程レベルの査定は科目レベルの査定に関係し、かつ連動して機関としての学習成果の達成に寄与する。

(c)科目レベル：教員は、機関が定める学習成果に基づき、授業を通じて獲得できる学習成果を設定し、学生がそれを獲得したかどうかを査定する。その結果、期待する学習成果を獲得させるための教授方法などの改善を図る。」¹⁰⁾

4.2 学修評価システムに関する現状

長崎女子短期大学における学修成果の評価指標の構成レベル（図8）、および学修成果の評価指標の担当部署（表3）を以下に示す。

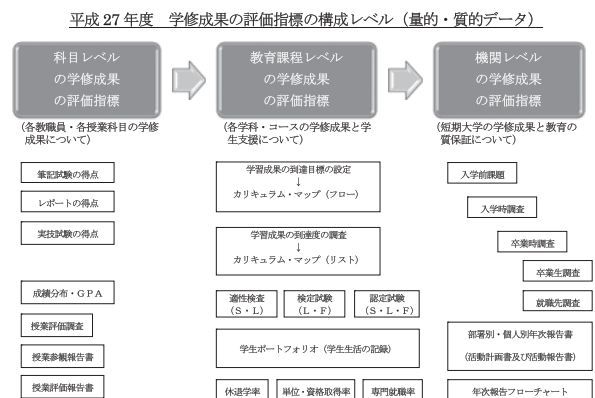


図8. 学修成果の評価指標の構成レベル

表 3. 平成27年度 学修成果の評価指標の担当部署

担当部署	データ
自己点検評価室	<p>〈主に第三者評価に関連するデータの体系化に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●点検評価の根拠資料の体系化 (学習支援、生活支援、進路支援) (機関別・課程別・科目別) (到達度・満足度・学習行動・職業志向) ●自己点検評価年次報告書 ●PDCA フローチャート
IR 推進室	<p>〈主に学科コース別全体データ、統計的データに関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学ポートレート ●教育評価システム ●入学時調査・卒業時調査 ●PROG 検査
教務委員会	<p>〈主に学生個別の個人データ、記述的データに関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生ポートフォリオ (履修カルテ・学習成果の他者評価と自己評価、実習評価、面談記録) ●授業評価アンケートおよび授業評価報告書
キャリア支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ●就職状況 ●就職先調査 (4年に1回、平成27年度に実施予定) ●卒業生調査 (4年に1回、平成28年度に実施予定)
短大コンソーシアム九州	<ul style="list-style-type: none"> ●IR・Web 調査・システム (在学時調査・卒業時調査・卒業生調査) ●IR・目標セルフチェック・システム (※教務システムが必要) ●IR・学生サポートメモ・システム (※教務システムが必要) ●IR・学修ポートフォリオ・システム (※教務システムが必要)
図書館	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館の利用状況等
学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●学友自治会関連のアンケート
学生相談室	<ul style="list-style-type: none"> ●学生相談室の利用状況等
募集・広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> ●オープンキャンパス関連のアンケート
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ●入試の成績、高校の内申 ●在学生数、休退学者数 ●免許・資格の取得状況、認定・検定の合格状況 ●保健室の利用状況等 ●各部署の議事録・根拠資料 ●その他の第三者評価に関連するデータ

4.3 学修評価システムに関する課題・展望

小村は2016年1月に開催された「分野別到達目標に対するラーニングアウトカム評価による質保証」フォーラムの基調講演で、教育の改革・改善の方向性について次のように述べている。「これからの教育改革・授業改善では、学修成果の可視化による質保証を目的として、初等中等教育の学修指導要領にある社会貢献のための『学力の3要素』(①知識・技能、②思考力、判断力、表現力、③主体性)と各校独自の能力を到達目標とし、評価の共通言語であるルーブリックでシラバスに明記すること。また、アクティブラーニングの中のプロジェクト学修を有効に活用し、ルーブリック

による内部での到達度評価と標準化された外部での業者テストの両面で学修成果を検証して、授業設計・教授法の改善に繋げることの重要性」を述べた。

安達(2015)は、「学修成果評価システム(LOAS)の構築によるPDCAサイクルのシステム化」¹³⁾の中で、富山短期大学におけるエンrollmentマネジメントと学修成果の可視化について報告している。エンrollmentマネジメントとは、私立短大教務担当者研修会(2015)の用語解説によると、「学生の満足度向上を目的に、入学前から卒業後までを一貫してサポートする取り組みで、学生一人ひとりの入学状況や出席・成

績情報、相談履歴、就職情報などあらゆるデータを共有し、教職員が協力して学生を支援する。これにより、入学者の増加、休・退学の防止、卒業後における大学への協力などが期待される。」¹⁴⁾ ことである。富山短期大学では、内部質保証のためのPDCA サイクルが、明確な学修成果の到達目標と、詳細なカリキュラム・マップ、様々な可視化グラフによって確立している。

従って、長崎女子短大においても、学修成果とカリキュラム・マップに対応した機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの査定が可能な学修評価システムを構築し、レーダーチャートなどの可視化グラフを活用する必要がある。

5. IR 活動の検討

5.1 IR 活動とは

文部科学省は2012（H24）年8月の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」³⁾の中教審答申の中で、上記の自己点検・評価活動を促進するためにはIR（機関調査）推進室の設置が必要であることを提唱している。私立短大教務担当者研修会（2015）の用語解説には、「インスティテューショナル・リサーチ（IR：Institutional・Research）とは、大学において、教育機能の改善や経営改善、認証評価に対応する、教育・研究に関する組織的調査のことである。また、IRの活動にあたっては、IRの機能を有する組織の設置が必要となる。活動内容としては、①学生への教育活動・支援とその成果の検証、②認証評価と自己点検・評価の対応、③中長期計画の策定、④調査データの収集とその検証を意識した活動などがあげられる」¹⁴⁾、と示されている。

5.2 IR 活動に関する現状、および課題・展望

長崎女子短期大学のIR活動は、以下の5種類である。

- ①満足度を査定する在学生 Web 調査（入学時・卒業時）
- ②汎用能力を査定するジェネリックスキル調査（自己評価・他者評価）

③リテラシーとコンピテンシーを査定する
PROG 検査

④学修成果の経年変化を分析する追跡調査

⑤職場での社会的評価を査定する就職先調査

今後は、社会人基礎力や基礎学力等を定期的に査定し、他の指標も含めた多角的・体系的なデータの収集・分析・考察を継続的に実施する必要がある。

6. 今後の展望

本稿では、「教育の質保証」「教育の質的転換」「3つの方針に基づく教育」の3つの提言について、長崎女子短期大学が取り組んでいる内容を、「学修成果」、「PDCA サイクル」、「学修評価システム」、「IR 活動」を中心に報告した

短期大学基準協会の短期大学評価基準（2015）には、自己点検・評価の意義について次のように述べている。「短期大学が行う自己点検・評価は、第三者評価のためだけではなく、また、環境の変化への対応やコンプライアンスの強化を図るためだけでもない。自己点検・評価は、短期大学の社会的使命や独自性を認識し、各短期大学が自らの教育研究活動の継続的な質の保証を図るために積極的に取り組むべきものであり、ひいては、短期大学全体、高等教育全体の質の向上と同時に多様性を確保するための礎となるものである。短期大学は、学生や地域の幅広いニーズにこたえ、地域文化を継承していく存在であり、多様性が乏しくなっていくことは、活力を失うことと同義だと考える。短期大学が、地域に必要な存在としてより一層向上・充実していくためには、日常の教育研究活動や業務に自己点検・評価の視点を取り入れ、自主的な改革・改善に取り組んでいくことが肝要である。短期大学による自己点検・評価は第三者評価の基礎であり、その促進は評価機関の責任の一部である。短期大学評価基準は、短期大学の改革・改善への刺激あるいは支援となることを企図して策定されている。」¹⁵⁾

以上のことから、今後、長崎女子短期大学では、教育の質保証と学生支援（学修、生活、進路）の質の向上・充実を目指し、学生全体と個別の学生

ポートフォリオと学修評価システムを構築することが急務であると思われる。そして、その結果をホームページや大学ポータルで公開することで、社会的な貢献と責任を果たすことができ、短期大学の評価と魅力に繋がると思う。また、日常的な自己点検・評価活動や定期的なFD（教育の改革・改善）・SD（業務の改革・改善）活動をとおして、内部質保証のPDCAサイクルを確立し、短期大学の発展・充実に努めていく必要があると思う。

15) 短期大学基準協会：短期大学評価基準の趣旨、短期大学評価基準、(2015)

参考文献

- 1) 短期大学基準協会：第三者評価実施要領、(2004)
- 2) 原田博史：短期大学評価基準等について、第三者評価 ALO 対象説明会 (2015)
- 3) 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～、文部科学省中央教育審議会答申、(2012)
- 4) 清水栄子：アクティブラーニング ―主体的な学びを促すために―、大学間連携共同教育推進事業 FD/SD 研修会、(2015)
- 5) 中央教育審議会：三つのポリシーに基づく大学教育への質的転換、文部科学省中央教育審議会答申、(2015)
- 6) 武藤玲路：自己点検・評価における在学生調査の活用事例、短期大学コンソーシアム九州紀要、3、19-28 (2013)
- 7) 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて、文部科学省中央教育審議会答申、(2008)
- 8) 佐藤浩章：3つのポリシーの策定と一貫性構築の方法、私立短大教務担当者研修会、(2014)
- 9) 香川順子、吉川恵子：汎用的スキルに関する概念整理と育成評価方法の探索、科学研究費補助金基盤研究 (B) 学士課程教育のアウトカム評価とジェネリックスキルの育成に関する国際比較研究、(2010)
- 10) 短期大学基準協会：学修成果と査定 (アセスメント)、自己点検・評価報告書作成マニュアル、(2015)
- 11) 中央教育審議会：初等中等教育における教育課程の基準等の在り方、文部科学省中央教育審議会答申、(2014)
- 12) 短期大学基準協会：建学の精神と教育の効果、短期大学評価基準、(2015)
- 13) 安達哲夫：「学修成果評価システム (LOAS) の構築による PDCA サイクルのシステム化」～「システム化」と「教職員協働」による教育の「質向上」・「質保証」の徹底を目指して～、私立短大教務担当者研修会、(2015)
- 14) 日本私立短期大学協会：教務委員会教務関係用語の解説、私立短大教務担当者研修会、(2015)